

令和3年度 学校評価

武蔵越生高等学校

(令和3年6月18日)

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 目指す学校像   | グローバル化した国際社会のなかで良き形成者・リーダーとして心豊かで実践力のある人間を育成する学校。  | 学校関係者評価は、PTA 役員、後援会役員、同窓会役員、学園評議員からなる学校関係者評価委員会による。 |
| 本年度の重点目標 | <p>1 学力の向上と進路の保障 学ぶことの大切さ、理解することの喜びを体得させ、生徒の実態にあった指導を研究し、魅力的で実力のつく授業の展開を図る。</p> <p>2 礼儀正しい態度の養成 社会の中の一員としての自覚を持たせ、自分を律していくことで自他の心を大事にする必要性をわからせる。</p> <p>3 クラブ活動の育成強化 生徒の特技や情操を高め、心身の健全な成長を図ると共に、愛校心を育てるためクラブ活動を重視し育成強化していく。</p> <p>4 地域との連携強化 地域の文化の砦としての信頼を得ると共に、積極的に交流を深め、地域の活性化の一躍を担う。</p> |   |

| 年度当初 |  |   |   |  | 最終評価に向けて   |      |   |  |   |
|------|--|---|---|--|--|------|---|--|---|
| 番号   | 評価項目   | 現状  | 具体的な方策  | 評価指標   | 中間評価   | 達成状況 | 令和4年度への課題と改善策   | 学校関係者最終評価  |   |
| 1    | ●学力を上げる。<br>●学習環境の整備   | ●クラス内の生徒の学力幅が広い。全コースで学力偏差値は少しずつではあるが上がっている。<br>●学力に不安を感じている生徒に対してのアプローチに工夫の余地がある。               | ●教科会、教科主任会、コース委員会の活性化による情報共有。<br>●スタディサプリやデジタル教材の有効活用。<br>●学力アップに向けた授業展開と検定取得に向けた講座の設定。                                 | ●漢検取得率 60%<br>●英検取得率<br>選抜Ⅱ・アスリート<br>3 級 40%以上<br>S 特・選抜Ⅰ<br>準 2 級以上 70%<br>●実力テスト平均偏差値<br>各学年 50 以上<br>●S 特・選抜Ⅰ 進研・河合<br>平均偏差値 50 以上、上<br>位 70 以上 | ●漢検合格率<br>●英検合格率<br>●実力試験平均偏差値<br>●進研・河合<br>模試^偏差<br>値 | B    | ●漢検 取得率 41.8%(46%)<br>2 級 0.2% 3 級 34.8% 4 級 52.9%)<br>●英検 選Ⅱ・アス 3 級 33.7%(27.0%)<br>S 特・選Ⅰ 準 2 級 34.3%(28.5%)<br>●進研・河合模試 S 特平均 52<br>上位英 74 国 72 数 72 選Ⅰ 平均 46<br>上位 5 名平均英 59 国 66 数 60<br>●第 3 校舎教室壁のリニューアル<br>●クロームブック導入 | ●教科会にて定期試験や模試の分析を行い課題や目的を明確にして主体的な学習態度を身に付け、進路実現に向けて継続的な学びをおこなう。<br>●次年度から新教育課程が実施される。さらに、観点別評価の導入に伴い、指導要録等の対応が必要となる。関係分掌が連携し準備を進めていく。<br>●引き続き ICT 環境の整備・利用方法の共有を進める。 | A |
|      | ●生徒個々の適性を見極め、将来有益な人材として活躍できるよう指導する。                                    | ●多様な入試制度で進路を目指す生徒がいる。<br>●大学・短大進学率が伸びない。  | ●各イベントを通じ生徒の進路意識を高める。<br>●学年会と進路指導部で進路情報、方針、方法等の共有を図る。<br>●大学との連携を図り体験型行事を設定。   | ●現役大学進学率75%を達成できたか。<br>●適切な進学指導で生徒、保護者の満足度は得られたか。  | ●大学・短大<br>進学率  | B    | ●大学・短大進学率 76%(65%)<br>国立大学 6(1) 早慶上理 3(3)<br>GMARCH7(9) 成成明国武 6(2)<br>日東駒専 17(31) 大東亜帝国 56(39)<br>延べ合格者 323(281)  | ●早い時期からの進路意識向上を目指すため、2 年生の 3 学期を 0 学期とし本館的な受験指導を行う。<br>●より子供たちに寄り添った指導を実施するために学年生徒全員と面談を実施する。<br>●キャリア形成に寄与する進路学習会を実施する。   | A |
| 2    | ●「挨拶」「礼儀」「校内美化」「授業規律」の習慣化。<br>●いじめ防止、撲滅に向けての活動。<br>●SNS、携帯依存の問題への取り組み。 | ●左記 4 つの習慣化に更なる徹底が望まれる。<br>●SNS 活用によるモラルに大きな課題がある。<br>●「いじめ問題」の基本的認識に対する意識<br>●生徒指導案件 0 へのこだわり。 | ●「指導部たより」、講演会、HR による啓蒙活動。<br>●「i チェック」「こころと身体のアンケート」の有効活用。<br>●「情報」や HR の授業での情報リテラシーの向上。<br>●学年、教育相談部との連携。カウンセリングの有効活用。 | ●身嗜み再検査数を減らすことができたか。<br>●問題行動を未然に防ぎ、生徒指導件数を減らすことができたか。<br>●転退学者を減らすことができたか。  | ●身嗜み検査再検査数<br>●携帯電話保管件数<br>●生徒指導件数<br>●非卒業率            | B    | ●身嗜み再検査数<br>1 年 35 名(33)2 年 48 名(26)3 年 40 名(28)<br>●携帯電話保管件数 45 台(33 台)<br>1 年 27 台 2 年 15 台 3 年 3 台<br>●生徒指導件数 13 件(12 件)<br>●転退学者/非卒業率 19 名/5.3%<br>(21 名 6%)  | ●校則について、昨今様々な話題が出てきている。時代の流れも考慮した校則づくりを推進していく。<br>●心の健康に関するアンケート「あなたについて」の有効活用により各部分掌と連携し早期発見早期解決に努める。<br>●転退学者減少に向けて各部署との連携をより一層図る。                                   | A |
| 3    | ●生徒の心身を鍛え、特技・特性を伸ばし、集団の一員として行動できるようにさせる。                               | ●学校行事に積極的に取り組むことができている。<br>●部室の清掃、部日誌の活用で自治活動の推進が必要である。   | ●生徒主導の部活動集会の実施。<br>●部室点検、部活動日誌の定期点検。<br>●感染症対策を講じながらイベントを継続する。  | ●部活動加入率<br>●部活動の実績<br>●部日誌の有効活用<br>●学校行事の実施状況  | ●部活動加入率<br>●部活動実績                                      | B    | ●クラブ加入率 90%<br>●全国大会ソフトテニス男子、和太鼓<br>●関東大会ソフトテニス男・女、陸上、チアリーダー、柔道部<br>●サッカー県ベスト 8<br>●体育祭中止 文化祭縮小開催<br>芸術鑑賞実施。<br>●部活動日数と時間の制限<br>●部活動日誌の点検   | ●新型コロナウイルス感染症の拡大は部活動加入率にも影響が出ている。<br>●ウィズコロナ時代にあった充実した、効果的な部活動・学校行事の運営を模索する。   | A |
| 4    | ●開かれた学校を目指し、地域・保護者と連携する。<br>●定員確保による学校評価。                              | ●PTA、後援会、同窓会の連携により、学校行事及び教育活動の運営に更なる成果を求める。<br>●380 名の定員に届かない。                                  | ●PTA・後援会・同窓会の活動を通じ魅力ある学校作りを推進。<br>●生徒募集関係イベントの質の向上。<br>●Web の積極的活用。   | ●学校評価委員会、PTA、後援会からの評価。<br>●募集定員を集められたか。  | ●中学・塾<br>交流<br>●P・後・同<br>連携<br>●HP アクセ<br>ス数           | B    | ●本校 OB・OG 教員情報交換会の設立<br>●PTA 強歩大会の協力 50 名<br>●塾説明会 148 名(143)<br>OC1026 名(968)<br>●HP アクセス数月平均 30,832 件   | ●PTA との連携は不可欠であり、より綿密に連携をとっていく。<br>●ウィズコロナ時代にあった SNS を活用した学校紹介、学校説明会の工夫。   | B |

達成度 A:ほぼ達成(80%) B:概ね達成(60%程度) C:変化の兆し(40%前後) D:まだ不十分(40%未満)